



「京都みつばちガーデン推進プロジェクト」



京都みつばちガーデン推進プロジェクトとは？

中京区役所の屋上で、「ニホンミツバチ」の巣箱を置き、専門家の指導により、日本に昔からいる「ニホンミツバチ」を飼育する取組です。

※ 中京区役所の屋上には庭園があり、これまでもミツバチが花の蜜を集めにきています。



どうしてそんなプロジェクトをするの？

都心部には緑が少なく、区役所ではまちの緑化に取り組んでいますが、蜜のある花やミツバチによる受粉で実がなる植物を栽培してもらい、まちなかの緑化を進めようと考えました。

また、京都学園大学バイオ環境学部ではニホンミツバチの研究をされており、区役所屋上で飼うミツバチを使って一緒に研究をしたいと考えています。

ミツバチの研究って何をするの？

ミツバチは、花の蜜を集めるときに、その花の受粉を助け、その植物が実をつけるお手伝いをする益虫ですが、春に巣分かれ(分封といひます)した群れは、通報があれば駆除されています。そこで、これを駆除せずに保護・飼育する研究をしたいと考えています。

何匹くらいのミツバチを飼うの？

巣箱1箱を置きます。1箱の巣箱には約2万匹のミツバチいますが、役割分担があり、幼虫の世話をするハチ、巣箱の掃除をするハチ、蜜を集めるハチなどがいて、全部が蜜を求めて飛び回るわけではありません。

ハチって刺すのでは？

ミツバチは、攻撃性が低く、外敵に攻撃されたとき以外は自分から危害を加えることはなく、したがって、手で捕まえたり、巣箱の近くで刺激したいしなければ刺されることはないといわれています。

最近、「都市養蜂」といって、東京の銀座や大阪の梅田でもビルの屋上で養蜂を行っています。近隣でミツバチに刺されたということはないと聞いています。

これらの都市養蜂で飼育されているミツバチはどれもセイヨウミツバチですが、今回区役所が飼育をしようとしているニホンミツバチは、より攻撃性が低いミツバチです。

ニホンミツバチとセイヨウミツバチ

	ニホンミツバチ	セイヨウミツバチ
養蜂	まれに行われている	一般的に広く行われている
性格	非常に温和	温和
蜂蜜	採蜜量は少ない	採蜜量が多い

誰がミツバチの世話をするの？

中京区役所の屋上庭園は、ボランティア団体「中京・花とみどりの会」の皆さんが世話をされていますが、プロジェクトをサポートするため、会の皆さんの中から、「京・みつばちの会」を設立され、専門家である京都学園大学バイオ環境学部の坂本文夫教授の講習を受けられました。折にふれ教授の指導を受けていただいて、ミツバチの世話をさせていただきます。

